

## 春の彼岸会厳修

三月廿日。当山の彼岸会を厳修いたしました。

彼岸法要のあと、尺八と琴の演奏会を催しました。島田道雪先生ご夫妻とお弟子さんの三名で、童謡など親しみのある曲をまじえながら、全六曲を演奏していただきました。

参詣者の皆様ありがとうございました。



## 雑記 く見えない縁たち

今年も、庭の花たちが一斉に咲き始めました。冬が終わり、花の季節を迎えます。

自然のしくみというものは本当に不思議です。花たちは誰に言われるでもなく、咲く時期が来ると自然に咲き、散る時期が来ると自然に散っていきま

す。  
この花たちがきれいに花を咲かせる為に、地面の中ではたくさんの根っこたちが、土から水分や養分を吸い上げて、花を咲かせる手助けをしています。

同じように人間も、この世に存在しているのは、父母・祖母、さらに木の根っこのように目には見えない先祖代々の、たくさんの人たちの、たくさんの縁が重なり合ったおかげで、こ

の世に誕生し、今の自分が存在できています。

そしていつの日か、私たちも、子孫たちが花を咲かせる為の、木の根っこことなるのです。

生かさるる  
喜び匂う  
春の花



平成二十一年四月一日発行  
じょうどしゅうせいざんぜんりんじは  
浄土宗 西山禅林寺派  
常林院

# 月影



第 28 号

お仏壇 ぶつだん

金子みすゞ

お背戸 せとでもいだ だいたい橙 だいだいも、  
町 まちのみやげの花菓子 はながしも、  
仏さま ほとけのをあげなけりや、  
私 わたしたちにはとれないの。

だけど、やさしい ほとけ仏さま、  
じきに くだみんなに下 くださるの。  
だから わたし私は りょうていていねいに、  
両手 りょうてかさねて りょうていた りょうてだくの。

家 うちにや にわお庭 にわはないけれど、  
お仏壇 ぶつだんには はないつ じゅうだって、  
きれいな はな花 はなが はなさい はなてるの。  
それで じゅううち じゅう中 じゅうあ じゅうかる じゅういの。

そして ほとけやさしい ほとけ仏 ほとけさま、  
それ わたしも わたし私 わたしに わたしく わたしだ わたしさ わたしるの。  
だけ はなど はなこ はなぼ はなれた はな花 はなび はなら はなを、  
踏 ふんだり ふして ふは ふい ふけ ふないの。

朝 あさと ばん晩 ばんと あかりにお あかりば あかりあ あかりさま、  
い あかりつも あかりお あかり灯 あかり明 あかりあ あかりげる あかりの あかりよ。  
な きんかは きんす きんつ きんか きんり きん黄 きん金 きんだ きんか きんら、  
御 ご殿 ごの ごよ ごう ごに、 ごか ごが ごやく ごの。

朝 あさと ばん晩 ばんと わすに わすれ わすれ わすれ わすず わすに、  
私 わたしも わたしお わたし礼 わたしを わたしあ わたしげ わたしる わたしの わたしよ。  
そ おもして おもそ おもの おもと おもき おも思 おもう おもの おもよ、  
い わすち わすん わすち わすれ わすて わすい わすた わすこ わすと わすを。

忘 わすれ わすて わすい わすて わすも、 ほとけ仏 ほとけさま、  
い ほとけつも ほとけみ ほとけて ほとけい ほとけて ほとけく ほとけだ ほとけさ ほとける ほとけの。  
だ ほとけか ほとけら、 ほとけ私 ほとけは ほとけそ ほとけう ほとけい ほとけう ほとけの、  
「 ほとけあ ほとけり ほとけが ほとけと、 ほとけあ ほとけり ほとけが ほとけと、 ほとけ仏 ほとけさ ほとけま。」

黄 きん金 きんの ご御 ご殿 ごの ごよ ごう ごだ ごけ ごど、  
こ ごれ ごは、 ごち ごい ごさ ごな ご御 ご門 ごな ごの。  
い わたしつも わたし私 わたしが わたしい わたしい わたし子 わたしな わたしら、  
い とつ とか と通 とつ とて とゆ とけ とる との とよ。

# お経の話

何が書てあるの？

浄土宗西山勤行式

(赤本) 解説

## 肆誓偈 (四)

くそじようまんぞく

功祚成満足

威曜朗十方

日月戢重暉

天光隱不現

為衆開法蔵

広施功德宝

常於大衆中

説法師子吼

功祚・・・功德。

満足・・・満ち足りた状態。

威曜・・・威嚴。

日月・・・太陽と月。

重暉・・・太陽と月との二重の輝き。

法蔵・・・仏法の蔵。

説法・・・法を説く。

師子吼・・・獅子が一度ほえれば百獣がひれ伏すように、仏の発する一音一音は

人々に悟りをもたらず。

(訳)

功徳を完全に満たして、威嚴に満ちた輝きを十方までいきわたらせます。

そのために太陽と月は輝きを失い、天界の光さえも隠れて消えうせてしまうでしょう。

あらゆる生きとし生けるもののために、仏法の蔵を開放し広く功徳の宝を施して、いつも多くの人々の中で、獅子がほえているように気高い声で法をお説きになります。

「法蔵(ほうぞう)」という言葉があります。法蔵とは、仏のふところは、萬善萬徳の倉庫といわれ、すべての仏法や功徳がここから出てくるので法蔵と言います。

仏は私たちの為に、この法蔵という倉庫を開けて、力がない者には力を与え、貧しい者には宝を与え、徳のないものには徳を与え、一切の善や徳を、生きとし生けるものに与えて、永久にその身から失われないように、常に私たちに法を説きましよう、と誓われていることが書かれています。

# 仏事と作法

問)「花まつり」とはどんな行事  
なのですか？

答) 花まつりとは、四月八日の  
お釈迦さまの誕生日をた  
たえて営まれる法会です。  
「花御堂 (はなみどう)」  
という小さなお堂に、お釈  
迦さまの誕生仏を安置し、  
お花をかざり、甘茶を注ぎ  
ます。

問) なぜ、「花まつり」と言う  
のですか？

答) 今から約二千五百年前に、  
お釈迦さまはルンビニー  
という花園で、母マーヤー  
夫人の右脇から誕生した  
と伝えられています。  
この伝説にちなんで、「花

まつり」と呼ぶようになり  
ました。

問) なぜ甘茶をかけるのです  
か？

答) お釈迦さまが誕生  
された時、竜が甘露  
の雨を降らせて喜ん  
だことにちなんで、  
甘露の雨の代わりに、  
甘茶を誕生仏にかけ  
てお祝いします。

## 花まつり

問) お釈迦さまの誕生仏はどう  
して右手は上を、左手は下  
を指さしているのですか？

答) お釈迦さまはお生まれにな  
るとすぐさま立ち上がり、  
七歩あるいて右手は天を、  
左手は地を指さして、

「天上天下唯我独尊 (てんじょ  
うてんげゆいがどくそん)」  
とおっしゃいました。

これは、「天においても地に  
おいても自分が一番尊い」とい  
う意味ですが、自分が一番偉い  
と言っているのではなく、  
「この世に生きる私たち一人  
ひとりの命はとても尊い」  
という意味です。このお姿を誕  
生仏としておまつりしている  
のです。



花御堂



誕生仏